

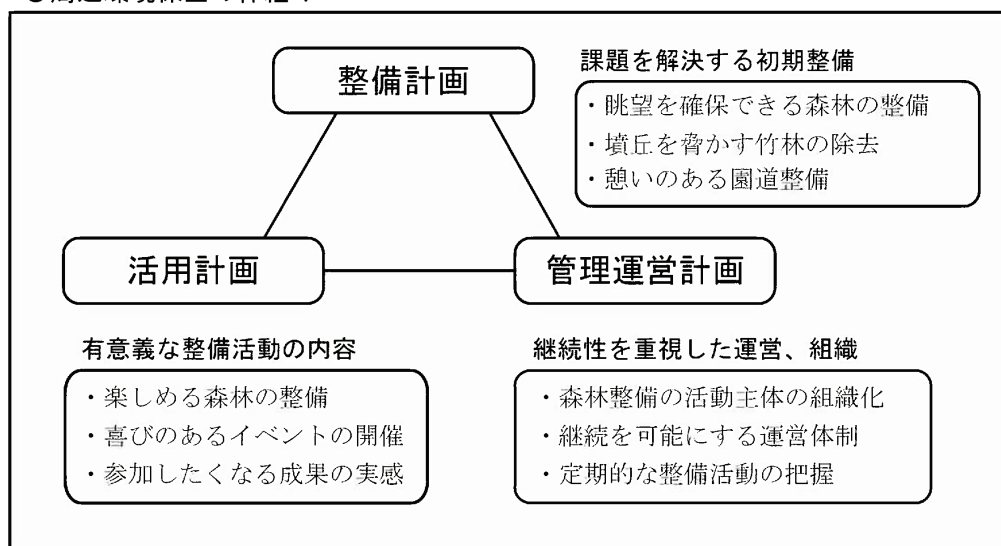
6) 周辺環境保全計画

計画範囲の大半を占める森林には、多くの課題が存在する。人の手が入ることが望ましい二次林が放置されたことにより、森林が荒廃している。周辺の森林の持つ多くの課題を整理し、桜京古墳の周辺環境としてふさわしい森林を市民参加によって再生する。

■市民との協働による森林保全

市民とともに行う森林の整備活動は、史跡とその周辺の活用を促進し、牟田尻古墳群全体の保護や史跡指定範囲の拡大につながると考えられるため、より多くの市民が興味を持てるようなイベントの開催などの活用計画や、継続的な整備を可能にする管理運営計画とともに検討を行う。

○周辺環境保全の枠組み

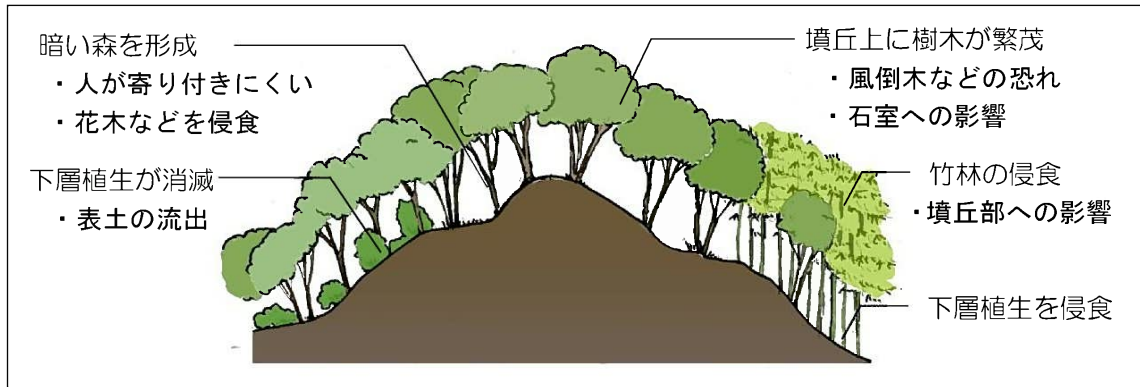


■周辺森林の課題

森林に関する課題は以下のようにまとめることができる。

①	<p>古墳の東側には竹林が繁茂し、墳丘へと拡大を続けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の在来植生を侵食し、下層植生を壊滅させている。 ・竹の成長が早く、すでに墳丘へ達している。石室への影響が懸念。 ・史跡東側外部からの古墳の視認性が悪い。
②	<p>常緑広葉樹林は放置され、視界を遮る暗い森を形成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眺望を遮っており、史跡西側外部からの古墳の視認性が悪く、樹林の整理が必要。 ・暗く視界の悪い森林のため人が寄り付きにくく、樹林の整理が必要。
③	<p>竹林の縮小撤去部の森林の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部から古墳の視認性に影響ある竹林部分は、撤去し、樹高を抑えるため、常緑低木類を中心に整備を行う必要がある。 ・竹林は下層植生を消滅させている為、撤去後の早急な植生の復旧の必要がある。

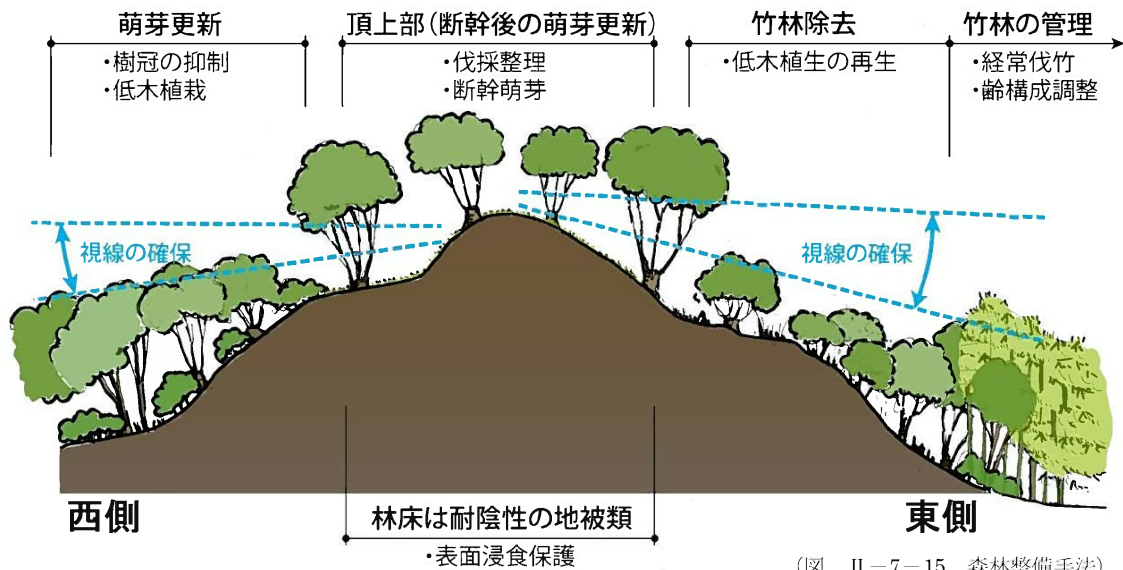
○周辺森林の課題



(図 II-7-14 墳丘の周辺森林の課題)

■整備手法

史跡への悪影響を及ぼす竹林の抑制や、頂部からの視界の確保などを行うとともに、誰もが史跡に不安なく訪れ、心地よい時間を過ごせるよう、見通しの良い明るい森林の再生を行う必要がある。断幹し萌芽更新させる箇所、樹冠の抑制を行う箇所、竹林の抑制など箇所ごとにふさわしい手法を選択し、心地よい森林の再生整備を長期に渡り整備を行う。



(図 II-7-15 森林整備手法)

整備内容	位置	整備手法	備考
竹林の 林相改良	史跡西側	・伐採及び根茎の処理 ・市民活動などによる継続的整備	・長期間の継続が必要 ・伐採した竹はイベントなどに活用可能 ・墳丘に影響のない竹林を保護
竹林撤去部 の植生	史跡西側	・植樹など新規整備 ・樹高抑制のための低木植栽 ・表面植生の再生	・居心地の良さを考慮 ・花木や落葉樹も含めた森林の再生
眺望の確保	史跡西側	・樹冠の抑制や枝すき等の処置 ・樹高抑制のための低木植栽	・風景確保の位置の選定 ・急傾斜地の整備の危険性
一般整備	全域	・下草処理や倒木除去 ・枝すき、断幹など里山整備	・整備範囲が広い ・急傾斜地が多く存在する

(表 II-13 墳丘周辺の森林整備手法)

■内景観の確保

玄界灘を望み、宗像海人族の活躍に思いを馳せることができるように、墳丘上及び頂上園地からの眺望の確保のための森林の整備を行う。歴史把握や地形把握などの学習機能とともに、夕日を望む史跡を憩いの場として提供する。

○北方から南西にかけての眺望(イメージ)

広大な玄界灘の風景は海人族の活躍とも密接に関わるとともに、夕日を望むことができる。墳丘西側一帯の常緑広葉樹林を低木植栽などへの林相改良が必要である。



(図 Ⅱ-7-16 北方から南西にかけての眺望イメージ)

○東から南東にかけての眺望(イメージ)

宗像の盆地の形状や山際の集落の形成を把握することができる。墳丘東側の竹林の抑制、縮小を行うとともに新たに林相を形成する。



(図 Ⅱ-7-17 東から南東にかけての眺望イメージ)

○森林整備の範囲

(図 II-7-18 森林整備の範囲)



眺望確保 (墳丘西側の整備)	・樹冠を抑制し、眺望の確保を図る。特に展望所の周辺については低木植栽などで林相の改良を行う。
林相改良 (墳丘東側の竹林)	・竹林を伐開し、根茎の除去を数年の間継続的に行い、竹林を縮小する。竹林が縮小された跡は花木や落葉樹、低木類や下層植生も含め植樹し、明るい森林を再生する。
園路整備 (花木などの植栽)	・園路沿いについては花木などを植栽し、園路として安心感のある心地よい景観を心がける。
里山整備 (地域協働による)	・周辺に広がる森林は雑草の除去や倒木の撤去など、清掃的な整備から行い、密度調整や、断幹・萌芽更新などへ展開する。市民が管理する整備された里山を目指す。
竹林管理 (地域協働による)	・竹林は一部残し、経常的な伐竹や密度調整を行い、豊かな竹林を形成する。タケノコ狩りなどの森林イベントなどへの活用も念頭に入れる。

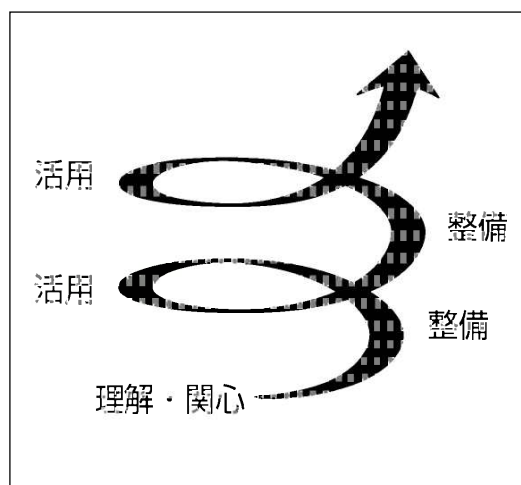
(表 II-14 森林整備手法)

7) 周辺古墳群との広域的保護計画

牟田尻古墳群については、今回計画範囲外となった多くの古墳群も含め、広域的な保護が必要である。牟田尻古墳群の整備は、他にない固有の景観を形成し多大な魅力を発すると考えられる。

広大な古墳群である為、その公有地化や保存整備には、桜京古墳の活用の活性化と、長期的な調査研究が必要になる。

周辺森林の整備や観光ボランティアによる活動、教育活用を継続的に行い、活用の状況に応じて段階的に整備を進め、長期的視点で牟田尻古墳群全域の保護を目指す。



(図 II-7-19 活用の活性化が進むに伴い、整備の内容も段階的に進展していくイメージ)

8) 公開、活用計画

ア) 活用

宗像市の歴史拠点である郷土文化学習交流館と連携し、宗像ネットワークのひとつとしての活用を図る。体験学習の場や、宗像海人族遺跡の観光ルートの開発によって学校教育や観光活用、地域コミュニティと連携した地域づくりに貢献する。

① 学校教育や生涯学習に供する

- ・小中学校で行われる歴史学習や自然学習の現地学習の場として活用を図るため、教職員と連携し、授業の内容や進捗状況に合わせた学習カリキュラムを作成する。
- ・郷土文化学習交流館と密接に連携し、施設で行う歴史講座等と現地見学の組み合わせメニューの作成や企画展示等とリンクさせたツアーの開催などを展開し、活用促進を進める。

② ボランティア活動の実践の場

- ・郷土文化学習交流館で進められている地域学芸員の育成や、史跡見学ルートの開発などの企画に沿ったボランティア活動を推進する。
- ・観光ボランティアなどによるツアーガイドを推進や、森林整備ボランティア活動の一環としてのイベントの開催を行う。

③宗像遺産ネットワークに位置付け、近隣史跡との連携による魅力の向上を目指す。

- ・宗像海人族にかかわる歴史観光ツアーなどを開発するなど、特徴ある活用事業の展開を進める。
- ・装飾古墳を有する他市町村との広域的連携を検討する。
- ・インターネットの即時性を活かし、むなかた電子博物館上で古墳の情報や行事案内を行う。
- ・時代に即した IT 技術などを駆使した情報提供を行う。

④世界遺産の構成要素としてアピールする

- ・世界遺産の構成要素として調査研究を進め、その範囲を牟田尻古墳群全体に拡大し、沖ノ島祭祀にかかわった宗像海人族の位置付けをより明確なものにしてゆく。その成果は市民やマスコミへ迅速に提供・公開する。

イ)石室、壁画の公開、活用手法

石室内環境や壁画の状況に応じた公開手法を選択する。また、公開可能な石室内環境を維持できる場合、活用事業を展開する必要がある。近郊では装飾古墳を擁する市町村が4月と10月の年2回同時公開する「遠賀川流域装飾古墳同時公開」を開催しているが、このような広域事業との連携や、福津市や宗像市などの近隣古墳群や関連施設との連携活用事業を展開する。

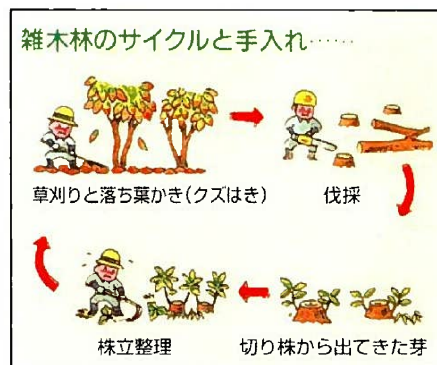
石室内環境の状態	公開手法	対策
不安定時 (温度変化の異常、カビの発生・増殖 壁画の異常、水や小動物の浸入等)	・非公開	管理計画に従い専門家等に報告・協議し、対応策を検討。
安定時	・常時公開 ・不定期公開 (申込制など) ・定期公開	石室内環境の状況を踏まえ、公開方法や公開回数(日数)などを検討し適切な方法を選択する

(表 II-15 石室の公開手法)

ウ)周辺園地の活用計画

市民との協働による森林整備

活用事例などを考察し、史跡としてふさわしい森林整備の手法を検討する。この活用の目的は牟田尻古墳群全体の保護にあり、より多くの人に森林整備に参加してもらい、活用が促進されることで広域保護の実現を目指す。定期的な整備活動とともに、参加者の増加を促すイベントの開催をする。



(図 II-7-20 市民との協働による森林整備)

■ 定期活動

・ 竹林の抑制と管理

墳丘付近の竹林は、墳丘・石室に悪影響を及ぼすため伐採や根茎の除去を継続的に行い、縮小に導く。古墳への影響がない園路の途中などでは、定期的な管理を行い、心地良い竹林ゾーンの形成を目指す。



(写 II-30 市民との協働による竹林整備)

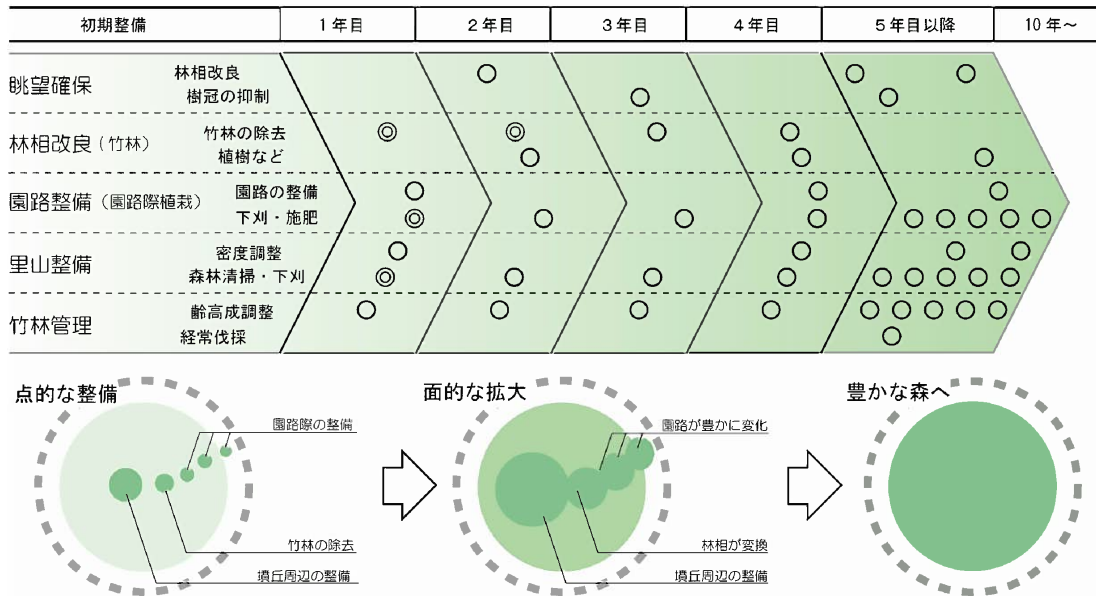
・ 広葉樹林などの2次林の管理

定期的な管理を必要とする。段階的に断幹、萌芽更新などを繰り返し、明るく見通しの良い森林の再生とともに、下層植生の育成を行う。



(写 II-31 市民との協働による2次林の管理)

○ 森林保護活動の進行イメージ



(図-7-21 森林保護活動の進行イメージ)

■ イベントの開催

多くの市民がこの森林再生に参加したくなるよう、楽しみを持った整備活動とするため、下記のようなイベントを企画する。

竹林整備と竹炭の製造イベント	➡	羅漢池の水質浄化に利用
森林整備と炊き出しイベント	➡	筍の収穫と竹林整備
燈明などのライトアップイベント	➡	竹を利用したライトアップ
苗木の育成と植樹イベント	➡	竹を利用した苗木の育成



(写 II-32 イベントイメージ)

9) 管理・運営計画

■管理・運営と体制づくり

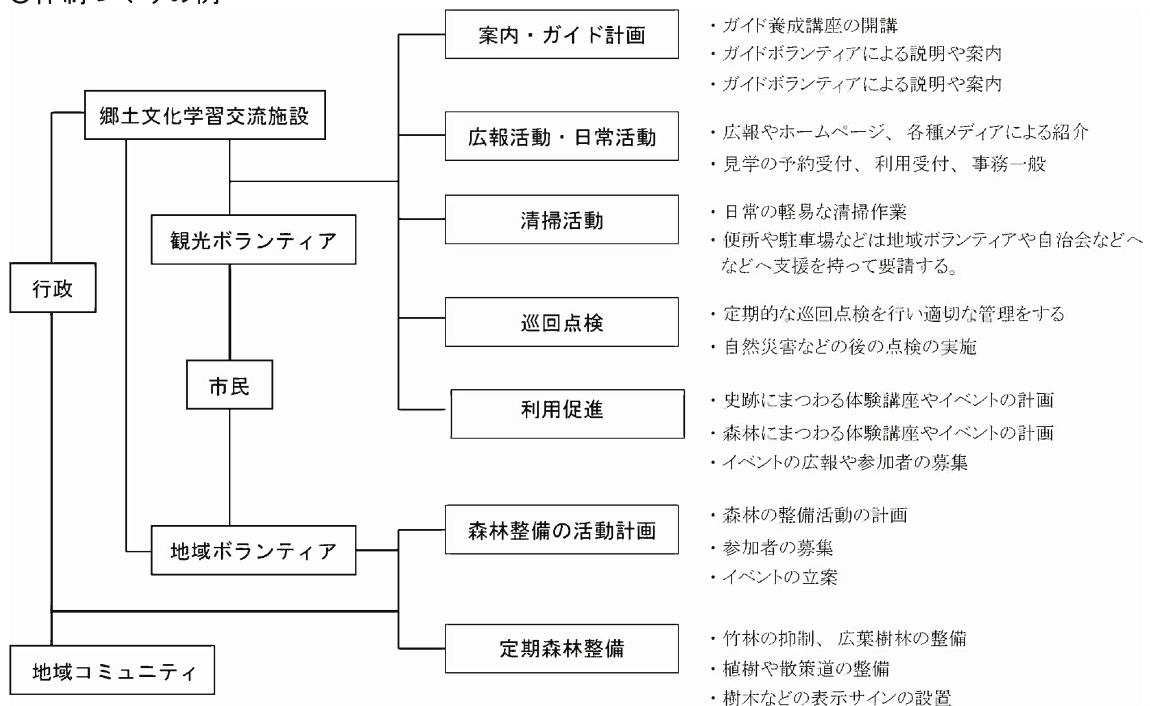
市民との協働による史跡整備や、森林再生活動には、何よりも市民の関心を高めることが肝要である。地域の森林や史跡に接することが少ない一般市民に、その価値の認識や森林に親しんでもらう機会をより一層広げ、暮らしの中に日常的に地域文化と関わりあう生活を提供できるよう、広報活動やイベントの開催などを積極的に行うことが大切になる。

管理・運営は史跡の維持管理と、多大な森林整備の大きく2点が挙げられる。特に森林整備に関してはその範囲が多くなり、長期の活動を継続して行うことが前提となる。市民の意欲や興味を継続して引き出しつつ活動を拡大できる整備計画や体制づくりを必要とする

○市民と行政の協働による活動推進の例

- ・郷土文化学習交流館が主導的に観光ボランティアの育成や、海人族観光ルートの開発などを行い、市域の他の施設や団体連携し観光ネットワーク化を進める。
- ・自治会や市民団体が中心となり、桜京古墳周辺の森林保護を目的とするボランティア団体を設立する。
- ・行政とボランティア団体が協働でイベント事業の企画、広報活動などを行い、森林整備ボランティアの活動を促進する。
- ・行政と地域コミュニティの協働による森林整備や、地域ボランティア活動による森林保護イベントの開催など、多彩な団体に関わる柔軟な体制づくりを行う。

○体制づくりの例



(図-7-22 体制図参考例)